

# 歯科診療報酬に関する中医協での論点

## 歯科医療に係る論点

### 【地域包括ケアシステムの推進について】

#### (地域における歯科医療機関と施設・行政等関係機関との連携)

- かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所に係る施設基準について、小児患者を多く診療しているが、成人期・高齢期も含めてライフステージに対応した歯科診療を行っている場合の要件の在り方についてどのように考えるか。
- 施設基準の選択要件に「自治体等が実施する事業に協力」があるが、必ずしも明確に示されていないとの指摘があることから、より分かりやすく示すはどうか。

#### (医療機関間の連携)

- 歯科診療特別対応連携加算について、障害者に対する歯科医療においては、地域の歯科診療所と歯科を標榜する病院等が機能分化・連携して提供されている実態を踏まえて、要件の在り方についてどのように考えるか。
- HIV感染に関連した口腔内の症状に対して、医科医療機関と連携しつつ対応する場合の評価について、どのように考えるか。
- 安心・安全で質の高い歯科医療の推進のためのICTの活用、研修等)
- ICTの活用に関する検証結果を踏まえて、訪問歯科衛生指導におけるDentist to P with DH (Dental Hygienist) の評価の在り方についてどのように考えるか。
- 新たな感染症にも適切に対応できるよう、歯科医療機関における歯科医師や職員を対象とした研修等を含めた取組等についてどのように考えるか。

### 【生活の質に配慮した歯科医療の推進等について】

#### (口腔疾患の重症化予防)

- 歯周病安定期治療、歯周病重症化予防治療について、診療実態を踏まえて、より分かりやすい評価体系とする観点から、評価の在り方についてどのように考えるか。
- フッ化物洗口指導やフッ化物歯面塗布処置については、年齢等によって対象者が限定されているが、これらの治療の対象者についてどのように考えるか。

#### (各ライフステージに応じた口腔機能の管理)

- 小児口腔機能管理料や口腔機能管理料について、口腔機能の低下がみられる年齢等の実態を踏まえてどのような対応が考えられるか。

#### (歯科固有の技術の評価)

- 歯周基本治療処置について、その内容等も踏まえて、評価のあり方をどのように考えるか。
- 歯冠形成等の歯科固有の技術について、実態を踏まえた評価のあり方についてどのように考えるか。

12月10日中医協 歯科医療(その2)から抜粋

## 中医協・歯科医療(その2)から見えるもの

中央社会保険医療協議会(中医協)は12月10日「歯科医療(その2)」を議論している。その中では、2022年の診療報酬改定の骨子が示されているが、項目だけではその意図が見えにくいので解説する。

まず、歯科医療を取り巻く状況については、総医療費に対する歯科医療費の割合は、1981年度に11%程度だったものが2019年度には6.8%にまで落ち込んでいる。高齢者人口が増加する近未来には年齢階級別の歯科医療費が増加するため、さらなる歯科医療費の削減を目論んでいる。

か強診においては地域包括ケアシステムに資するようさらなる他職種との連携が求められ、施設基準はより厳しくなることが示唆されている。一方、日本小児歯科学会のアンケートから、か強診の施設基準を満たせない要件として「歯科訪問診療関連」「歯周病安定期治療関連」が多くを占めていることを提示した。成人期・高齢期も含めてライフステージに対応した歯科診療を行っている場合の要件について議論されており、対象拡大の可能性もある。

医療機関間の連携については、障害児に対する病診連携、HIV感染患者の連携評価が見込まれる。

安心・安全で質の高い歯科医療の推進のためのICTの活用では、ICTの活用に関する検証結果から、「遠隔の歯科医師が口腔内の状況を確認することで、より詳細な指導が可能となった」とし、訪衛指におけるICT活用が検討されている。

感染対策にかかる研修会については、歯科医師だけでなく歯科衛生士や歯科技工士等も対象とし「HIVウイルスやHBVウイルス、新型コロナウイルス等の特徴を踏まえた院内感染対策等に関する講習」の例示があった。

歯周病については、SPT I やSPT II、P 重防の包括項目や算定頻度が示されている。対象や算定間隔など、不合理の改善に期待したい。

う蝕については、フッ化物歯面塗布処置などの対象患者について整理を示唆している。根面う蝕の対象は訪問診療の患者に限定されていると指摘している。

各ライフステージに応じた口腔機能の管理では、小児口腔機能管理料は15歳まで、口腔機能管理料は基本的に65歳以上が管理対象となっている。口腔機能管理料については、50歳頃から口腔機能の低下に関連した項目に該当すると答えた者の割合増加が認められると報告されており、対象年齢の拡大が見込まれる。

最後に歯科固有の技術の評価として、P 基処はタイムスタディー調査の結果から、平均所要時間2.7分であったことや、算定回数が提示されている。包括や廃止の懸念がある。メタルコア加算については、形成方法に大きな差異がないファイバーポストにも評価して欲しいとする診療側とファイバーポストと同様にメタルコア加算を見直すよう求めた支払側とで意見が対立している。

今回の改定率が0.43%プラスと小振りな改定となり、このような場合削除・削減する項目と新設・増価項目が複雑に入り組むことが多い。協会・保団連の要望が一部取り入れられているが、今後も細部にわたり注視し、保険でよい歯科医療の実現のため会員の声を国に届けていく。



社保研究部長  
平尾清司



立憲・森山議員(右)



共産・宮本議員(右)



れいわ・大石議員  
(右から2人目)

協会では先の衆院選で当選した大阪選出の衆院議員に要請行動し、①金パナ「逆ザヤ」問題②コロナ禍の受診手控え③コロナ禍の歯科医院の感染対策費の実情を伝え、歯科医療体制の立て直しを訴えた。

柳本頭(自民)、森山浩行(立憲)、宮本岳志(共産)、大石晃子(れいわ)各衆院議員が懇談に呼び、柳本議員は、「党内でもプラス改定にむけて努力したい」と話した。大石議員は、窓口負担軽減に理解を示し、医療費助成制度の窓口負担が無料の自治体もあることを踏まえ、貧困が広がる中で子どもの医療費

窓口負担無償が全国的なものとなるよう国の問題として捉えたいとした。森山議員は「衛生材料と金パナの高騰で歯科医院が大変な状況になっている」と、協会の訴えに理解を示した。宮本議員は、「厚労省通知の影響で歯科医院はコロナ禍で減収となっているのだから、プラス改定は当然」と話した。

## 大阪選出議員に要請

集会では、歯科技工士の労働環境問題で仙台歯科技工士専門学校長の伊藤多佳男氏が歯科技工士の後継者不足について問題提起し、「深刻化するば、日本国民の歯科医療

窓口負担無償が全国的なものとなるよう国の問題として捉えたいとした。森山議員は「衛生材料と金パナの高騰で歯科医院が大変な状況になっている」と、協会の訴えに理解を示した。宮本議員は、「厚労省通知の影響で歯科医院はコロナ禍で減収となっているのだから、プラス改定は当然」と話した。

## 歯科総行動に500人

低歯科医療費政策を改めさせ、保険で良い歯科医療を実現させようと「保険で良い歯科医療を」全国連絡会は12月16日、国会内で「2021歯科総行動」を全国220カ所をWEBで繋ぎ開催し、与野党の国会議員21人を含む500人が参加した。春から取り組まれた「保険で良い歯科医療を」を「請願署名21万筆分を集会参加議員に提出した。協会からは戸井逸美副理事長、増田宏美衛生士、事務局が参加した。

低歯科医療費政策が続き、コロナ禍での受診控えが大きな問題となっていると指摘。全ての国民の歯科口腔保健を人権として守り、誰もが安心して歯科受診できる社会の実現のため、「歯科医療の正当な評価を求めて、診療報酬改定における大幅引き上げと歯科医療費の総枠拡大に向け、奮闘していく」と呼びかけた。

## 保険で良い歯科実現へ

### 全国連絡会 署名21万筆集約

除適用拡充を求める意見書採択が、山梨県最後の自治体で集会同日に可決したことを報告した。

宇佐美宏樹代表は、